



愛知医科大学大学院 看護学研究科

修士課程

AICHI MEDICAL UNIVERSITY
Graduate School of Nursing 2025

愛知医科大学大学院 看護学研究科(修士課程)について

愛知医科大学大学院看護学研究科は、高度専門職業人にふさわしい看護実践者として、これからの看護研究・教育・管理に貢献できる人材を育成するために、2004年4月に開設しました。

その後、2007年度に感染看護学領域において高度実践看護師(専門看護師[CNS])コースを開設し、2015年10月には高度実践看護師(診療看護師[NP])コースにおいて、特定行為研修制度の研修機関として厚生労働省から指定(38行為21区分)を受けるなど着実に発展を遂げ、更なる看護学の発展に寄与する人材の育成を行っています。

研究科長あいさつ



Message from the Dean

研究科長

若杉 里実

WAKASUGI Satomi

愛知医科大学大学院看護学研究科は2004年に開設し、2024年3月までに186名の修了生を送り出しました。このうち診療看護師[NP]コースは、2023年度に10周年を迎え、43名の修了生を送り出しております。学生たちは全国各地から来ており、修了後は実践者・管理者・教育者として活躍をしています。

社会情勢が複雑に変化し将来の予測が困難な時代になりつつある中、看護専門職者に求められる場は拡大し、役割は多様化してきており、様々な課題を実感しながら実践に取り組んでおられることと思います。

本研究科では、実践家である皆さんが日常の看護実践で気になっている現象を紐解くことから始まります。自らの体験を語り、自分自身の考えを整理し、理論や先行研究との関連を議論し合い、研究手法を用いて研究を実施し、論文にまとめていくというプロセスを通して、大学院でこそ身につけることが期待されている「高度な専門的知識」「普遍的なスキル」「様々な場面で応用可能な能力」を自律的に学修してみませんか。

本研究科は、社会人として働きながら大学院に通う院生が多いため、夜間開講や長期履修制度等、学びやすい教育環境を整えています。さらに、看護学研究科博士課程の設置に向けた準備を進めております。看護学研究科修士課程から博士課程まで学修を継続し、キャリアアップにつなげることができる質の高い教育の充実を目指していきます。皆様のご入学を心からお待ちしております。

教育理念

看護現象に根ざした人間存在の原理的・統合的・全人的理解を基盤として、学際的・国際的な視点を加味した看護学を教授し、卓越した看護実践能力及び研究・教育・管理能力を持つ高度実践看護師を育成するとともに、研究・教育を通して看護学の発展に寄与する。

教育目標

- 1 高度な知識・技術と卓越した実践能力を持つ高度専門職業人を育成する。
- 2 看護の質向上に寄与する研究・教育・管理能力を持つ高度専門職業人を育成する。
- 3 国際的視野を持って、看護・看護学を探究しつづける人材を育成する。
- 4 看護学の学問的発展に寄与できる研究者・教育者を育成する。



学 位

看護現象に根ざした人間存在の原理的・統合的・全人的理解を基盤として、学際的・国際的な視点に基づく卓越した看護実践能力及び研究・教育・管理能力を身に付け、高度専門職者として優れた能力ないし教育・研究活動に貢献できる能力を修得した者に、修士(看護学)の学位を授与する。

募集人員

15名

担当教員研究内容一覧

教育研究分野・専攻領域及びコース

教育研究分野	専攻領域	コース	
基礎看護学	基礎看護学	修士論文	
	看護管理学		
母子看護学	母性看護学		
	小児看護学		
成人・老年看護学	慢性看護学		
精神・在宅・地域看護学	精神看護学		
	在宅看護学		
	地域看護学		
高度実践看護学	感染看護学		修士論文
			高度実践看護師(専門看護師[CNS])
	臨床実践看護学	修士論文	
		高度実践看護師(診療看護師[NP])	

担当教員研究内容一覧



基礎看護学領域

篠田 かおる 准教授

- 看護技術の根拠となる形態機能に関する研究
- 多職種連携教育に関する研究
- 感染予防教育に関する研究



看護管理学領域

山中 真 教授

- 転倒外傷予防
- 看護師の実践技術の量的評価



看護管理学領域

山本 恵美子 准教授

- 組織の安全文化構築に向けた教育開発に関する研究
- 多職種連携教育に関する研究
- 卒前・卒後の一貫した医療安全教育に関する研究



母性看護学領域

山本 弘江 准教授

- 夫婦に対する産後うつ病の早期発見とスクリーニングに関する研究
- 子育て期の家族のメンタルヘルスに関する支援の検討
- 親の育児ストレスに関する研究



小児看護学領域

茂本 咲子 教授

- 子どもと家族を主体としたケアに関する研究
- 子どもと家族の相互作用を支える看護に関する研究
- 低出生体重児の継続看護に関する研究



慢性看護学領域

谷口 千枝 教授

- 行動変容に関連する心理・社会的要因の分析
- 禁煙行動に関する疫学研究
- レセプトデータを用いた疾病と生活習慣との関連分析



慢性看護学領域

森 莉那 准教授

- がん患者の治療と社会生活の両立支援に関する研究
- 慢性の病いをもつ人々のセルフマネジメント支援に関する研究
- 慢性の病いをもつ人々への外来看護師の役割に関する研究



精神看護学領域

心光 世津子 教授

- 精神科病棟看護における自己決定支援に関する学際的研究
- 精神障害からの回復・リハビリテーションに関する研究
- セルフヘルプ・グループやピアサポートに関する研究



在宅看護学領域

佐々木 裕子 准教授

- 在宅ターミナルケアに関する研究
- 小児在宅ケアに関する研究
- 地域・在宅ケアで取り組む災害対策と要配慮者支援に関する研究
- 在宅看護教育に関する研究



地域看護学領域

坂本 真理子 教授

- 多文化に対応する子どもと親のための健康ハンドブックの開発
- 地域で活動する保健師の異文化間看護能力育成プログラムの開発
- 保健師の歴史研究



地域看護学領域

若杉 里実 教授

- 地域看護活動に関する研究
- 保健師の人材育成に関する研究
- 地域看護学教育に関する研究
- 看護学生の慢性疼痛教育に関する研究



感染看護学領域

青山 恵美 准教授

- 医療関連感染予防に関する研究
- 感染管理、感染症看護に関する研究
- 結核感染予防に関する研究



感染看護学領域

長崎 由紀子 准教授

- 感染予防・感染症看護に関する研究
- 高齢者施設における感染予防に関する研究
- 感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師に関する研究



臨床実践看護学領域

泉 雅之 教授

- 医療コミュニケーションに関する研究、認知症の臨床



臨床実践看護学領域

黒澤 昌洋 准教授

- 診療看護師(NP)・看護師特定行為実践に関する研究

昼夜開講制・長期履修制度

医療等の現場で活躍している看護師・保健師の方々が退職や休職することなく学べるよう配慮しています。

また、2015年度入学生からは職業を有している等の事情により、標準修業年限での履修が困難な学生を対象として、修業年限を超えて計画的に履修し、修了することができる「長期履修制度」を導入し、社会人の学びやすさを支援する体制を取っています。



社会人比率	2024年度入学者	15名中15名(100%) [長期履修制度を利用する学生:1名]
	2023年度入学者	15名中15名(100%) [長期履修制度を利用する学生:1名]
	2022年度入学者	13名中13名(100%) [長期履修制度を利用する学生:1名]
	2021年度入学者	13名中13名(100%) [長期履修制度を利用する学生:7名]

研究指導体制

本研究科における指導体制は、少人数で個別的な指導を行うことを旨としています。このため、初学者であっても確実に研究のプロセスを学習しつつ、論文を作成できる体制を取っています。



研究環境

研究室

大学院生には、研究活動等で利用するための研究室を整備しています。24時間利用可能で、パソコン、机、保管庫・ロッカーを設置しています。



総合学術情報センター(図書館部門)

医学・看護学及び関連分野の学術情報を収集・管理し、教育・研究・診療を支援する専門図書館があります。図書約10万冊、視聴覚資料約1,500点、学術雑誌約4,000タイトルを所蔵しており、学内外を問わずどこからでも所蔵状況を確認することができます。利用にあたっては、医療情報の専門家である図書館員が検索のコツや利用上の相談にも気軽に応じます。平日は22時まで利用できることに加え、毎週土曜日及び一部日曜日にも開館しており、利便性の向上に努めています。



総合学術情報センター(情報基盤部門)

先進的な設備や最新のICT技術を導入し、学習支援環境の整備に積極的に力を注いでいます。課題解決(表分析、レポート作成等)などで、利用時間内であれば自由にパソコンが利用でき、操作支援やトラブルの対応には専門スタッフがサポートします。

特別講義

看護の展望や看護の探求心,知的好奇心を育成するとともに,看護職者としての意識の改革,看護に対する関心への動機付けを狙いとして,年に数回開講しています。



修了生へのサポート

本研究科では,修了生に対してのフォローアップ,キャリアサポートを目的とし『看護学部同窓会』を設置しています。『看護学部同窓会』では専用のメーリングリストを作成し,本研究科で開催するイベントの情報を発信したり,研究科担当教員及び修了生相互の情報交換の場として運用されています。



国内外の大学との交流

国際性

国際的な視野を広げるため,本学協定校であるケース・ウェスタン・リザーブ大学(米国),サンディエゴ大学(米国),オウル大学(フィンランド),マハサラカム大学(タイ王国)およびシンガポール国立大学(シンガポール)への海外研修の機会が準備されており,旅費の一部を助成する制度があります。

また,協定校の教員による遠隔講義により,日本とは異なる海外の大学院教育に触れ,海外の研究者・看護実践者と意見交換をする機会があります。

国内における交流

臨床実践看護学領域では,他の看護系大学大学院との協力などによる講義・演習を行っています。

科目等履修生制度

科目等履修制度は,本研究科において開講している授業科目の「単位修得」を目的として入学する制度です。本研究科において履修した科目は試験等で総合的に判断し,単位を認定します。認定された単位は,15単位を限度として,入学後に単位を認定することができます。

職業実践力育成プログラム(BP)

「職業実践力育成プログラム」(BP)とは,大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として,大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定するものです。

本研究科高度実践看護師(診療看護師[NP])コースは平成30年度に,高度実践看護師(専門看護師[CNS])コースは令和元年度に認定されました。



教育訓練給付金(専門実践教育訓練給付金)

高度実践看護師(専門看護師[CNS])コース及び高度実践看護師(診療看護師[NP])コースは,厚生労働大臣より,教育訓練給付金の専門実践教育訓練として指定を受けています。一定の条件を満たせば,2年間で最大112万円の給付が受けられます。

※専門実践教育訓練給付金の制度等の詳細につきましては,ハローワークや厚生労働省のWebページも併せて必ずご確認ください。

修了生からのメッセージ

Senior Message

医療における “タスクサーチ”の重要性

浜松医科大学医学部附属病院
臨床実践看護学領域
高度実践看護師(診療看護師[NP])コース

鈴木 陽介さん

2024年3月修了



医療ニーズがピークとなる2040年に向け、様々な取り組みが行われています。特に医師の働き方改革に伴うタスクシフト/シェアでは、診療看護師(NP)が中心となって活躍する必要があります。しかし、顕在しているタスクを代わりに遂行することだけが役割ではありません。

本コースでは、学内外を問わず多分野の先生と交流できることが魅力です。この経験から、医療には多くの「潜在的ニーズ」が存在することを確信しました。「潜在的ニーズ」に対して積極的に“タスクサーチ”をし、それを看護で果敢に解決し、課題解決を通じて新たな価値を創造する。これが大学病院に所属する診療看護師(NP)としての最大のミッションだと考えます。

医学と看護を統合し、 多角的な視点で 患者の生活を支えたい

愛知医科大学病院
臨床実践看護学領域
高度実践看護師(診療看護師[NP])コース

飯田 仁斗さん

2024年3月修了



私は、患者・家族に身近な立場である看護師が医学的側面を深めることで、より良い看護実践につながると考え進学しました。

本コースではクリティカルケア・プライマリケアともに学ぶことができ、幅広い知識を得ることができました。実習では診察と看護を統合した高度実践看護の基礎的能力を修得できるだけでなく、様々な領域で活動している診療看護師(NP)の実践を学ぶことができ、今後の自身の活動について考えることができました。また、本コースでは、看護を基盤とした教育であり、自身の看護についても振り返る機会となりました。

今後は、自己研鑽を続け、患者・家族の生活を支えられるようにチームの一員として活動したいと思えます。

大学院で得た知識を 現場にフィードバックし、 感染症看護の質向上を目指す

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
感染看護学領域
高度実践看護師(専門看護師[CNS])コース

木下 紀道さん

2024年3月修了



私は、コロナ禍で中間管理職として様々な課題に取り組む中、自分の力量不足に直面しました。より広い視野と専門的な知識を得て、患者さんとスタッフをエンパワーできる存在になりたいと思い、進学を決意しました。

CNSコースでは、高度看護実践、倫理的諸問題への介入方法など、専門看護師で求められる知識を体系的に学ぶことができました。課題研究では、臨床で抱いていたモヤモヤの原因が“対話不足”であることに気づき、リスクコミュニケーション研究として昇華することができました。先生、実習指導者の方々の手厚いサポートからは、教育者としてあるべき姿についても学ばせていただきました。

今後は学んだ知識を現場にフィードバックし、より質の高い感染症看護の実践へ繋げていきたいと考えています。

看護管理者としての 成長を目指して

愛知医科大学病院
看護管理学領域
修士論文コース

川村 和代さん

2024年3月修了



私は、看護部管理室への異動を契機に、看護管理学の知識を深め、看護における研究方法を学びたいと思い、大学院への進学を決めました。科目等履修生としての学びの過程を経て入学し、看護管理学を専攻しました。仕事との両立は大変でしたが、苦勞の中にも学びの喜びを感じ、充実した時間を過ごすことができました。

研究活動では、先生方からの確かつ丁寧にご指導をいただき、看護管理学を共に学ぶ仲間と励まし合いながら論文をまとめることができました。また、他分野の院生の方々との交流を通じて学びを深めたことは貴重な経験でした。

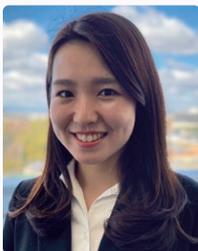
今後は、大学院での学びや経験を活かして、研究的視点を持ちながら看護管理実践に取り組んでいきたいと考えています。看護管理者として成長し、よりよい看護を提供できるように日々努力していきます。

妊娠、出産、育児を迎える 家族の笑顔を増やすために できること

母性看護学領域 修士論文コース

黒田 愛理さん

2024年3月修了



大学院への進学は、臨床で助産師として働く中、日々業務に追われ、一つ一つのケアに自信を持てなくなっていた時期に大学時代の恩師と再会しました。そこで、もう一度自分の看護を見つめ直そうと思い、進学を決めました。大学院では、看護を学問として丁寧に読み解いていくことや、自分の考えを言語化するディスカッションの授業が多いことが印象的でした。研究に関しても、様々な角度から深く研究課題を考えることができる貴重な経験でした。そして、改めて看護という専門性の高さを学び、自分の目指すべきものは何かと考えることができました。今後は、この大学院での学びを基に、自分自身の子育ての経験も踏まえ、妊娠期から育児期の家族への看護という視点で、研究や経験を重ねていきたいと考えています。

臨床や教育で体験した 疑問について振り返り、 考えることができた

日本福祉大学看護学部 教員
地域看護学領域 修士論文コース

南 千晴さん

2022年3月修了



入学前に約2年間科目等履修生として過ごす中で、広く看護学を探究することに関心を深め、大学院へ進学しました。

大学院の科目では、臨床実践及び看護教育を経験する中で、心に引っかかり続けていた場面について振り返り、思考・行動を明らかにしながら、体験を意味づける作業ができたことは、私の財産となりました。看護・教育の実践において、他者をケアするためには、まずは自分自身をケアし、承認していくことが必要であることを改めて実感しました。

今後は、大学教育に携わりながら、産業看護学分野での研究等を通して、社会に貢献していきたいと思えます。

修士論文コース

各分野の第一人者を講師として招き、幅広く専門的な看護学を教授

修士論文コースは、10の多彩な専攻領域を設置し、看護実践者の研究能力の向上と看護教育・管理に貢献できる看護職者の質的向上をめざした教育を行っています。働きながら学修を続けることができるよう、平日の夜間や土曜日などに開講しています。

カリキュラム

授業科目	配当年次	単位数		修得すべき単位数
		必修	選択	
現象学的看護学	1		2	当該指導教員と相談して選択(計14単位以上) 必修以外から
看護理論	1	2		
看護倫理	1	2		
看護教育論	1		2	
看護管理論	1		2	
看護研究方法論Ⅰ	1	2		
看護研究方法論Ⅱ	1		2	
コンサルテーション論	1		2	
看護政策論	1		2	
国際看護学	1		2	
英語文献講読	1	2		
基礎統計学演習	1		1	

共通科目

授業科目	配当年次	単位数		修得すべき単位数
		必修	選択	
基礎看護学特論Ⅰ	1		2	(1) 専攻領域の講義科目 4単位 (2) 専攻領域の演習科目 4単位
基礎看護学特論Ⅱ	1		2	
基礎看護学演習	1		4	
看護管理学特論Ⅰ	1		2	
看護管理学特論Ⅱ	1		2	
看護管理学演習	1		4	
母性看護学特論Ⅰ	1		2	
母性看護学特論Ⅱ	2		2	
母性看護学演習	1		4	
小児看護学特論Ⅰ	1		2	
小児看護学特論Ⅱ	1		2	
小児看護学演習	1		4	
慢性看護学特論Ⅰ	1		2	
慢性看護学特論Ⅱ	1		2	
慢性看護学演習	1		4	
精神看護学特論Ⅰ	1		2	
精神看護学特論Ⅱ	2		2	
精神看護学演習	1		4	
在宅看護学特論Ⅰ	1		2	
在宅看護学特論Ⅱ	1		2	
在宅看護学演習	1		4	
地域看護学特論Ⅰ	1		2	
地域看護学特論Ⅱ	1		2	
地域看護学演習	1		4	
感染看護学特論Ⅰ	1		2	
感染看護学特論Ⅱ	1		2	
感染看護学演習	1		4	
特別研究(修士論文)	2		8	

専門科目

大学院での学びを活かし、自己研鑽を重ねていきたい

| Senior Message

慢性看護学領域(修士論文コース) 中村 恵理さん 第2学年

私は、臨床現場や大学教育で働く中で、一人ひとりに寄り添う支援について探究したいと思い、大学院への進学を決めました。

大学院の授業では、理論や概念に基づいて看護学を学修し、豊富な知識と経験のある先生・院生方とのディスカッションを通して、知見を広げることができました。また、先生方より丁寧で熱心なご指導をいただきながら、自分の研究課題を見つけることができました。

今後も、大学教育に携わりながら看護研究を続けていき、看護学を学ぶ学生に寄り添いながら、学生とともに成長していきたいと思えます。



高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コース

感染看護学分野の高度実践看護師を育成

感染看護学領域は、専門看護師教育機関として認定を受けており、修了者は公益社団法人日本看護協会が実施する専門看護師認定審査（感染症看護）の受験資格が得られます。

教育方針

高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コースは、対象のクオリティ・オブ・ライフの向上を目的として、キュアとケアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使し、個人・家族・集団・地域に対して、卓越した感染予防ケアと感染管理を実践する高度実践看護師の育成を目指します。

課題研究では、医療関連施設における感染症患者及び易感染患者のケア、感染症に伴う倫理的問題への介入、施設及び地域における感染管理活動、災害時の感染防止、感染症集団発生時の疫学調査と感染拡大防止対策などについて探求し、感染看護学の発展と看護の質向上に寄与する研究論文の作成を目指します。



カリキュラム

	授業科目	単位数	修得すべき単位数
共通科目名	看護理論	2	8単位以上
	看護倫理	2	
	看護教育論	2	
	看護管理論	2	
	看護研究方法論I	2	
	コンサルテーション論	2	
	看護政策論	2	
	フィジカルアセスメント	2	6単位
	臨床薬理学	2	
	病態生理学	2	

	授業科目	単位数	修得すべき単位数
専門科目名	感染看護学特論I	2	18単位
	感染看護学特論II	2	
	感染看護学特論III	2	
	感染看護学特論IV	2	
	感染看護学特論V	2	
	感染看護学演習I	4	10単位
	感染看護学演習II	4	
	感染看護学実習I	3	
	感染看護学実習II	4	4単位
	感染看護学実習III	3	
	課題研究	4	

合計：46単位以上

感染症患者やその家族、感染症患者対応をする医療従事者を支援できるように、感染看護の知識を活かしていきたい

| Senior Message

感染看護学領域 高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コース **林 瑞穂さん** 第2学年

私は、COVID-19専用病棟の勤務時に、感染リスクによる不安や周囲からの孤立感を感じていました。そこで、感染症患者対応に当たる看護師に対し、病院組織や感染対策室はどのような支援ができたのだろうかという疑問を持ち、感染看護の知識を得て支援する側に加わりたいと思い、CNSコースに入学しました。

講義では、共通科目、専門科目で新しい知識を得ることができ、少しずつ自らの疑問も解消されていきました。研究活動では、感染看護の先生方からの専門的な視点でご指導していただき、私自身の疑問を見つめなおす機会となりました。

今後は、臨床に戻り感染対策室の一員として、感染症患者やその家族、感染症患者の対応をする医療従事者を支援できるように、感染看護の知識を活かしていきたいと思っています。



高度実践看護師（診療看護師 [NP]）コース

診療看護師 (NP) とは

病気を診断し治療を行うナース・プラクティショナーという看護師が海外では活躍しています。この役割の一部を担う看護師が診療看護師 (NP) です。診療看護師 (NP) とは、「患者のQOL向上のために医師や多職種と連携・協働し、倫理的かつ科学的根拠に基づき一定レベルの診療を行うことができる看護師」です。愛知医科大学大学院看護学研究科では、日本NP教育大学院協議会の養成教育カリキュラムに基づき、診療看護師 (NP) の養成を行っています。

診療看護師 (NP) の特徴とは

診療看護師 (NP) は、看護学を基盤として、診療とケアを統合した高度実践看護を実践することができる看護師です。特徴的な違いとして、これまでの看護学の知識・技術に加えて、医学的な視点を学ぶことによって、病気の診断技術と治療管理技術を修得します。加えて、厚生労働省「看護師の特定行為に係る研修制度」を通じて、38行為21区分の特定行為研修を行っています。



本学の特色

■ 2コース同時開講

本学では、クリティカルケアコースとプライマリケアコースの2コースを開講しており、日本NP教育大学院協議会主催・NP資格認定試験、クリティカル又はプライマリ(成人・老年)領域の受験資格を得ることができます。

■ 教育利点

医学部が併設されているメリットを生かし、薬理学、生理学などの基礎医学に関する科目は、医学部と同様の教育を受けることができます。また、臨床経験豊富な医師や先輩診療看護師 (NP) の講義によって、臨床実践能力の向上を目指すことができます。加えて、診療看護師 (NP) 資格をもつ看護教員が在籍しており、看護の視点を持って学ぶことができます。

医学と看護の視点を兼ね備え、 患者さんに合った看護の実現のために

| Senior Message

臨床実践看護学領域 高度実践看護師(診療看護師[NP])コース **並木 結美菜さん** 第2学年

私は、循環器内科病棟・集中治療室の経験を経て大学院へ進学しました。本コースを選択した理由は、質の高い看護を提供するためには、患者の一番傍にいる看護師が、医師の視点を持つことの重要性に気付いたからです。両者の視点を兼ね備えることで、シームレスな医療が実現すると考えます。

大学院では、医学講義や臨床推論で得た知識を、シミュレーション学習・実践的演習の反復により、診療看護師(NP)としてどう対応すべきか、トレーニングを行えます。また本学は、クリティカル/プライマリ領域それぞれの講義を選択でき、急性期から患者の将来を見据えた学習が可能です。

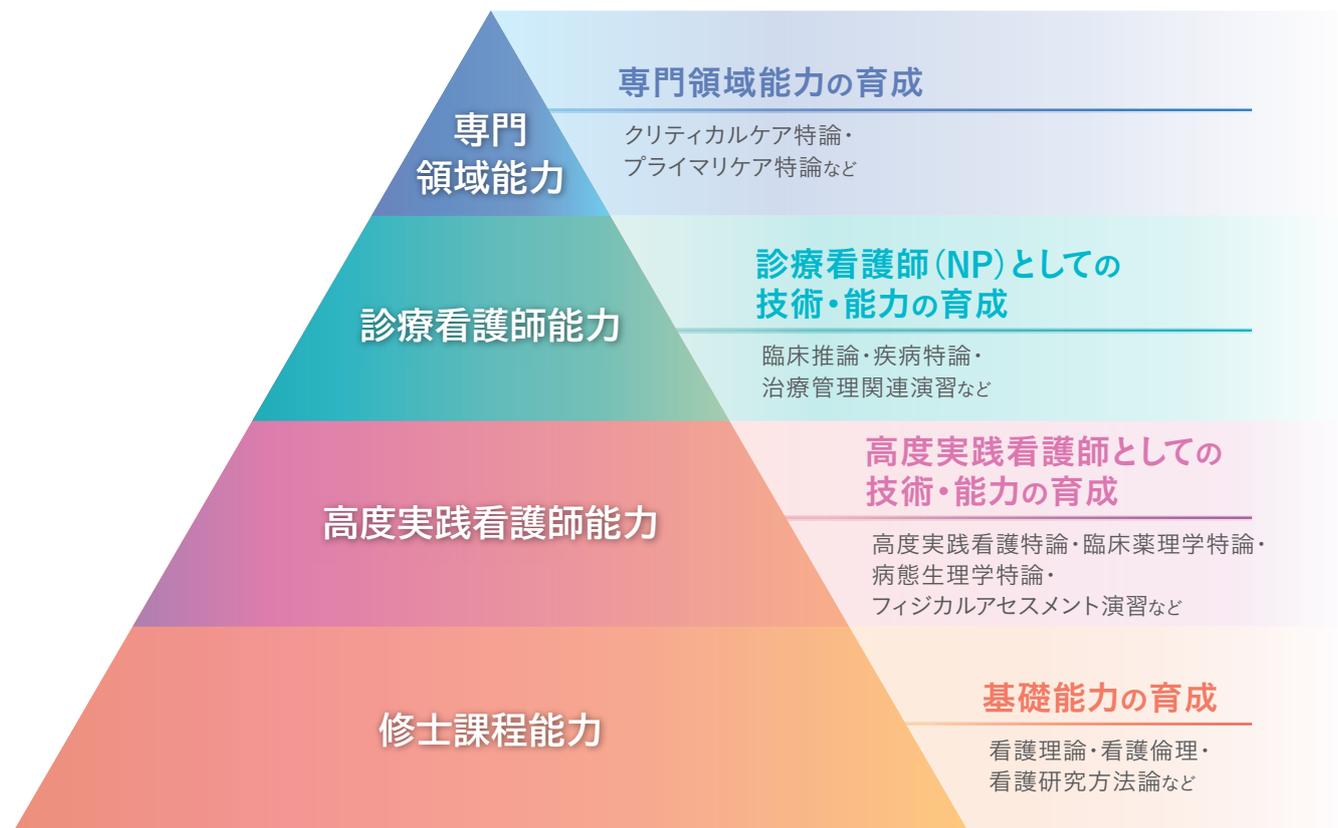
これまでの学びを活かし、入院中だけでなく退院後の生活を見据えたシームレスな看護を提供できるよう、今後も精進して参ります。



高度実践看護師（診療看護師 [NP]）コース

カリキュラムの特徴

諸外国の高度実践看護師養成教育モデルを参考に、段階的に、系統化された教育を積むことで看護学修士としての看護の視点を伸ばしつつ、診療看護師(NP)として必要な知識・技術を修得することが可能です。加えて、クリティカルケアコースとプライマリケアコースの両コース開設によって、より専門性を深めた教育を自身のキャリアプランに沿って学ぶことができます。



充実した学習・実習環境

診療看護師[NP]コースでは、専用の演習室を備えています。気管挿管、動脈穿刺、縫合シミュレーターや超音波診断装置も常備されています。シミュレーションセンターでは、高機能シミュレーターを用いて、シミュレーションを行っています。

学修は、ICTを活用した学修支援システムにより、自宅でも文献検索やレポートの提出ができ、社会人が学修しやすい支援を行っています。大学院生には、子育てをしながら進学する方も多くなっています。

実習は、愛知医科大学病院だけでなく、地域の中核病院、在宅診療専門クリニック、山間部や離島などのへき地の診療所などでも実習を行い、高度先進医療から地域医療まで幅広い対応が可能な診療看護師(NP)の育成を目的としています。



カリキュラム

授業科目		単位数	修得すべき単位数
共通科目	看護理論	2	計10単位以上
	看護倫理	2	
	看護研究方法論I	2	
	英語文献講読	2	
	看護教育論,看護管理論,コンサルテーション論,看護政策論(選択)	2	
専門科目	高度実践看護特論	2	計58単位
	チーム医療・看護管理特論	2	
	保健医療福祉システム特論	2	
	臨床薬理学特論	3	
	病態生理学特論	5	
	疾病特論	3	
	臨床推論	3	
	フィジカルアセスメント演習	2	
	呼吸器・循環器治療のための実践演習	4	
	ドレーン管理のための実践演習	2	
	疾病と治療 カテーテル管理と創傷管理	3	
	疾病と治療 薬物治療I	3	
	疾病と治療 薬物治療II	3	
	人体構造演習	1	
NP実習	20		
選択科目	クリティカルケア特論(選択)	2	計2単位以上
	プライマリケア特論(選択)	2	
課題研究	課題研究	4	計4単位

※診療看護師[NP]コースの専門科目における講義および実習は、昼間に実施されます。

合計：74単位

愛知医科大学奨学金制度

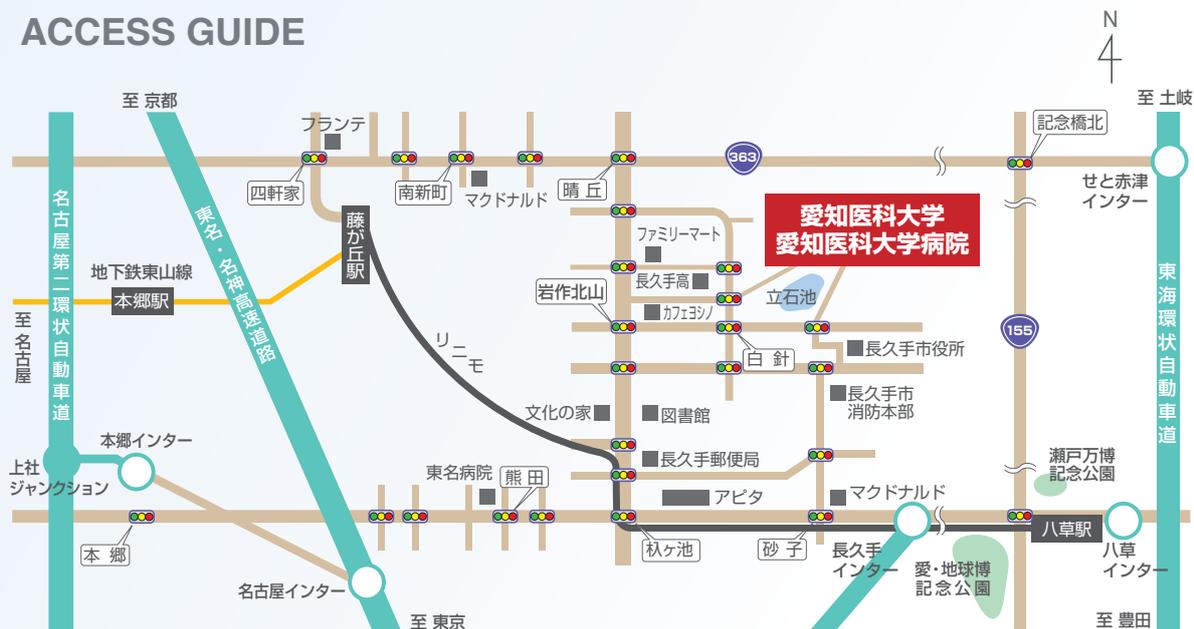
高度実践看護師(診療看護師[NP])コース修了後に、愛知医科大学病院に診療看護師(NP)として業務に従事することを希望する学生については、奨学金を受けることができます。

奨学金の月額等

奨学金額(月額)	貸与期間	貸与総額	返還免除までに要する期間
200,000円	24か月	4,800,000円	48か月

- ※1 奨学生の選考は、入学後に実施します。(4名程度を予定)
- 2 次の場合は、奨学金を一括返還いただきます。
- ・課程修了しなかった場合
 - ・課程修了後、愛知医科大学病院に就職しなかった場合
- 3 愛知医科大学病院で勤務した月数に応じ、次により計算して得た額の返還債務を免除します。
- $$\text{貸与を受けた額} \div \text{返還債務免除までに要する期間} \times \text{勤務した期間}$$

ACCESS GUIDE



■幹線道路から

- ①東名・名神高速道路・名古屋インターから車で約15分、長久手インターから車で約10分
- ②名古屋第二環状自動車道・本郷インターから車で約15分
- ③東海環状自動車道・せと赤津インターから車で約30分

■公共交通機関

名古屋駅から地下鉄東山線で「藤が丘」駅まで25分、地下鉄東山線「藤が丘」駅から名鉄バスで約15分

*詳細はホームページをご確認ください。

看護学研究科 入試説明会

詳細はホームページをご覧ください

入試説明
特設ページは
こちらから▶



博士後期課程 設置認可申請中 (令和7年度 開設予定)

*設置計画は予定であり、内容に変更があり得ます。

[お問い合わせ先]

愛知医科大学看護学部教学課大学院係

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL: 0561-62-3311(代表) 〈直通〉 TEL: 0561-61-1827 FAX: 0561-63-1093

E-mail: gakumu@aichi-med-u.ac.jp

URL: <https://www.aichi-med-u.ac.jp/>



財団法人大学基準協会
「大学基準適合認定」